

1. 研究概要

1.1 検討フロー

近年、建設技術の進歩は目覚しく、各分野において相次いで新工法が開発されているが、その特徴や適用性は一般の建設技術者には分かり難くなってきている。そこで、当小委員会では、体系化が必要と思われる技術を研究テーマとして採り上げ、幅広い建設技術者に役立つ情報や資料を提供していくことを目的として活動してきた。当小委員会の建設技術体系化の流れを図-1.1に示す。

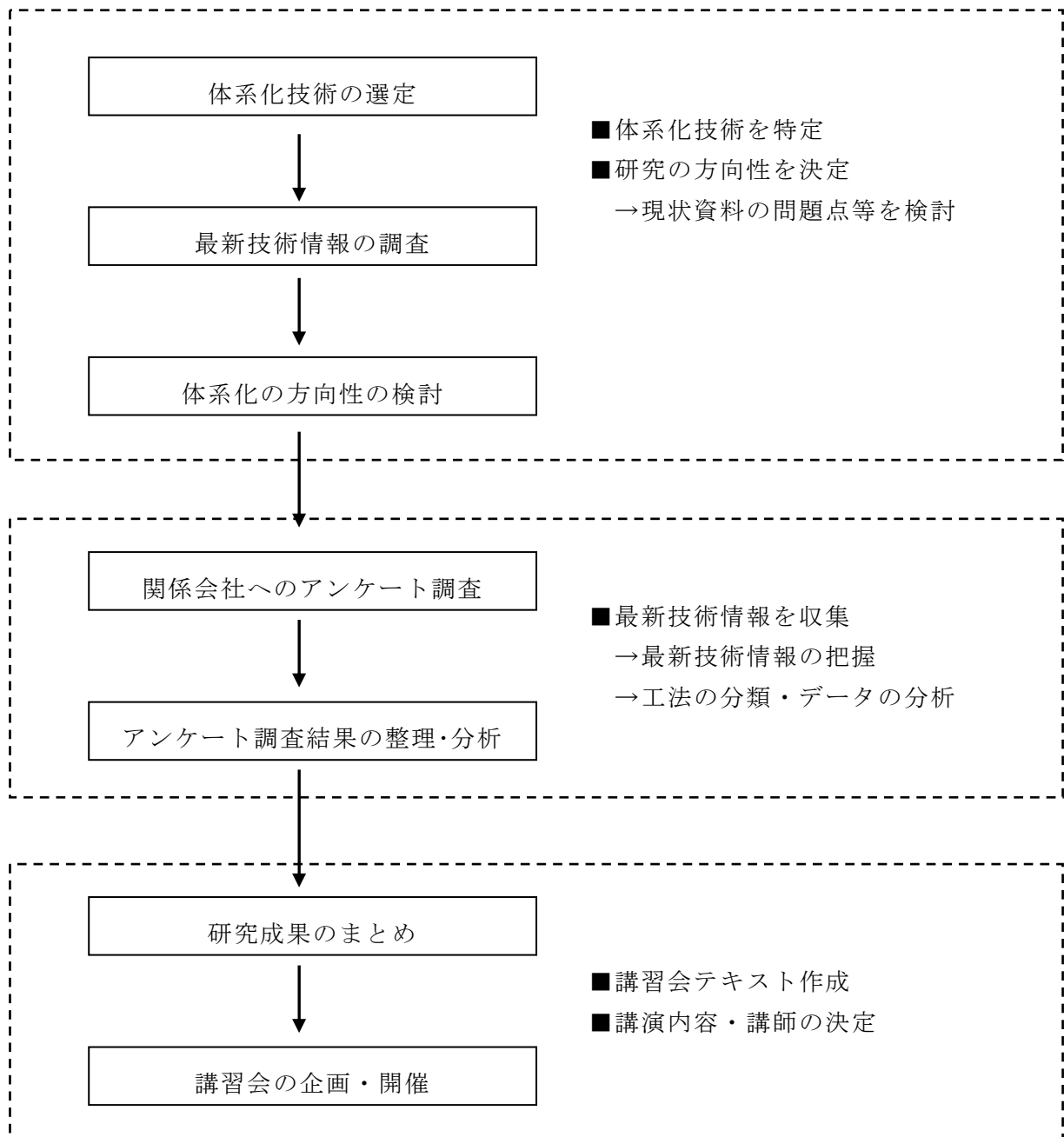


図-1.1 建設技術体系化のための研究の流れ

1.2 体系化する技術の選定

当小委員会においてこれまでに体系化した技術(過去の講習会タイトル)は、以下のとおりである。

【過去の講習会タイトル】

- 第1回 コンクリート混和剤
- 第2回 小口径の施工と維持管理
- 第3回 深層地盤改良工法
- 第4回 柱列式・泥水固化式地下連続壁
- 第5回 コンクリートひび割れ対策技術
- 第6回 最新の杭工法の現状と設計・施工のポイント
- 第7回 最新の切土・盛土工法の現状と設計・施工のポイント
- 第8回 最新の地盤改良工法の現状と設計・施工のポイント
- 第9回 最新の土留め工法の現状と設計・施工のポイント
- 第10回 最新のコンクリート技術の現状と設計・施工のポイント

今回、体系化すべき技術の選定に当たっては、以下の事項を踏まえ、過去に体系化した技術をリニューアルすることとした。

- ① 土木技術は、技術開発が急速に進められ、複雑化している。過去に体系化した技術は10年以上経過しているものもあり、この間で新たな工法が開発され、また使用実績が少なく、廃止している工法もある。
- ② 昨今、環境保全が注目されていることや、入札方式が総合評価入札方式へ移行されている等、工法を選定する上での選定項目が以前より変わってきている。

1.3 研究対象の選定

当小委員会では、多くの建設技術者が関心をもっている技術であることを前提に、リニューアルする技術(材料、工法)を以下のように選定した。

【リニューアルの対象とした技術】

- ① 杭工法(平成6年)
- ② 切土・盛土工法(平成9年)
- ③ 地盤改良工法(平成11年)
- ④ 土留め工法(平成15年)